佐渡の漁業、その変化と未来

～これからの佐渡魚市場が果たす役割～

佐渡水産物地方卸売市場
総務課長代理　木　村　章　平

１．地域の概要

私たちが活動しているのは、新潟県佐渡市全域です。佐渡島は海岸線約 282 キロメートル、東京 23 区の約 1.5 倍の広さを持つ島で、人口は令和８年７月末現在で 45,949 人となっています。観光客数は 2019 年の 24 万人から 2025 年には 32 万人へと増加しており、また令和６年７月には「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録が決定し、今後さらに世界的な注目が集まる地域になっています。



写真１　佐渡島（佐渡水産物地方卸売市場の所在地）

２．市場の概要（沿革・組織体制）

私たちの市場、佐渡水産物地方卸売市場は、新潟県佐渡市春日にあります。昭和 63 年１月１日、11 の漁業協同組合により開設され、その後の合併により、現在は７つの漁業協同組合が運営しています。組織としては、買受人 49 名、役員 10 名（理事７名・監事３名）、職員 11 名（うち５名は嘱託）という体制で、島内の水揚げと流通を支えています。

３．市場を取り巻く現状 ― 数字で見る市場の変化

図１は、私たちの市場が置かれている現実です。取扱数量は平成４年の 10,036 トンから令和７年には 2,850 トンへと、37 年間で約 72%減少しました。一方、取扱金額は 40.4 億円から 14.8 億円へと、約 63%の減少にとどまっています。

取扱量の減少幅に比べ、取扱高の減少幅が小さいということは、魚の単価はむしろ上がっているということです。数量に頼るのではなく、価値をどうつくるかが、これからの市場に問われていると考えています。

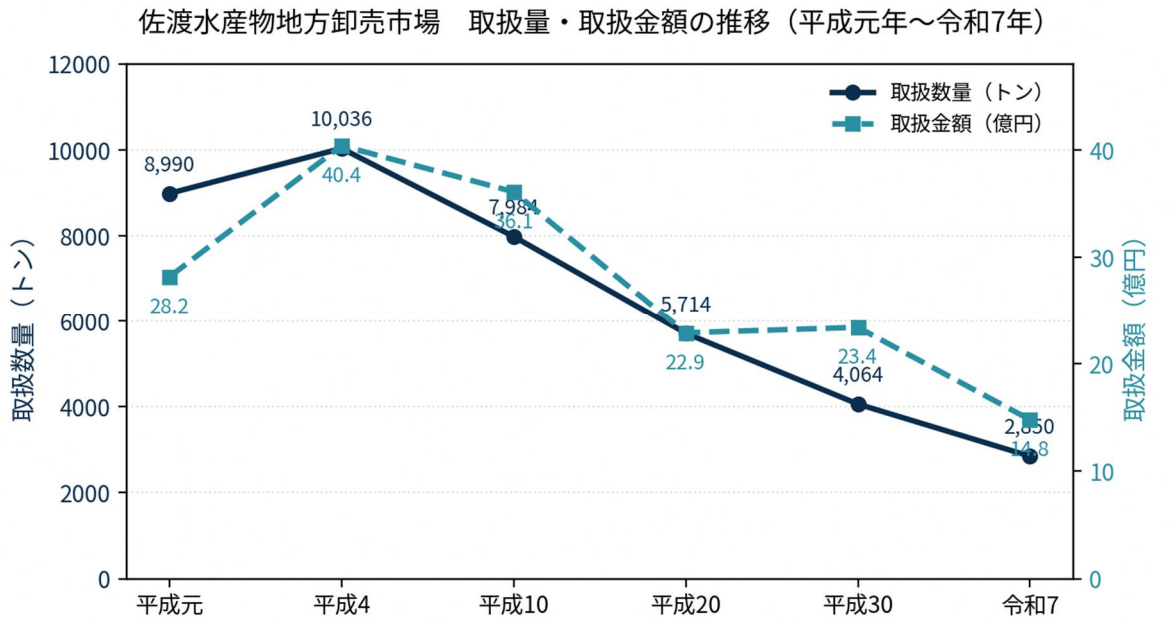


図１　佐渡水産物地方卸売市場　取扱量・取扱金額の推移（佐渡水産物地方卸売市場資料より作成）

４．見直しのきっかけ ― 若手漁業者の声

数量に頼らず価値をつくっていくために、私たちがまず取り組んだのが、情報をより速く、正確に届けることでした。そのきっかけは、若手漁業者からの声でした。組合まで見に行かないと今日の値段が分からない、紙の掲示は文字が読みづらい、すぐに値段が見れたら漁を調整できるのに――そうした声が、日常のなかで少しずつ積み重なっていきました。

実は市場職員にとっても、この作業は大きな負担でした。紙に集計し、市況専用の紙に書き写し、各組合に FAX を送り、上場内のホワイトボードにも書き込む。何十もの手間で、１回あたり約 90 分かかっていたのです。

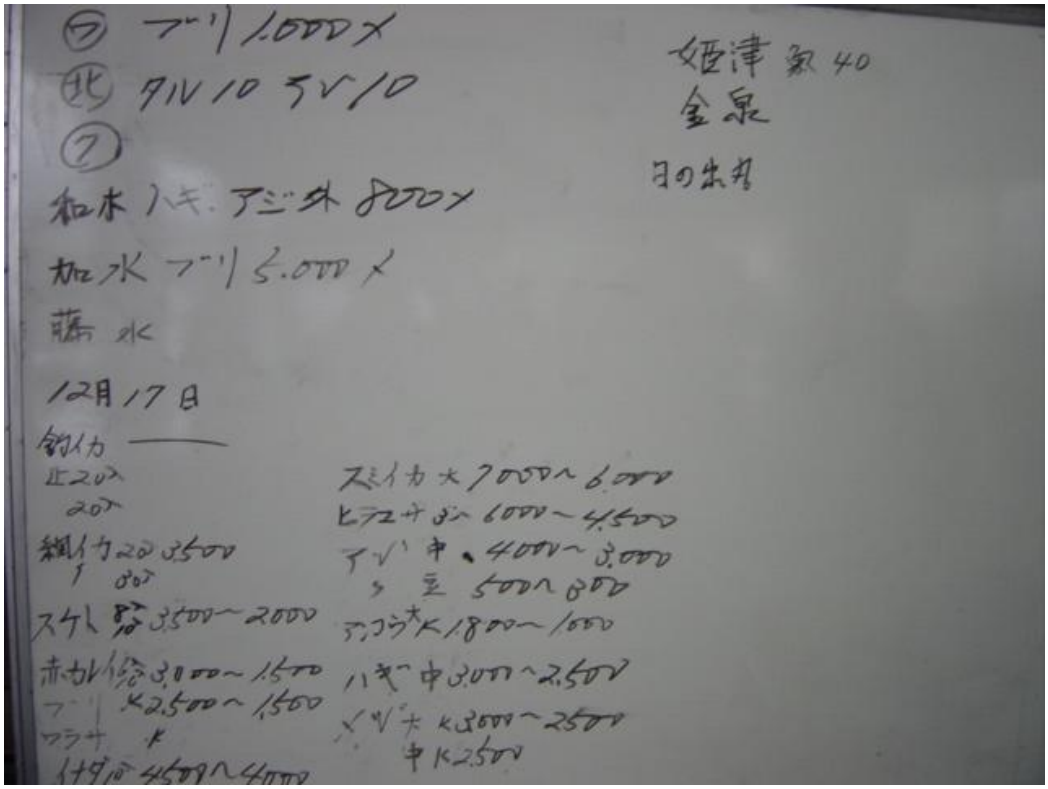


写真２　実際に使われていたホワイトボード（せり後の市況記入）

※卸売市場法第63条により市況の公表自体は義務とされていますが、公表方法までは定められていません。私たちはその義務を超えて、誰もがすぐに見られる形を目指しました。

５．実践活動の状況及び成果 ― LINE配信の導入

そこで私たちは、この流れをたった３ステップに変えました。PCで市況を入力し、PDFに出力し、LINEで配信する。それだけです。結果、作業時間は90分から30分へ、約67%短縮しました。FAXの使用も、紙の使用も、100%削減できています。

公式LINEの登録者数は、令和８年９月１日現在で623名。2022年の運用開始は、コロナ禍で日本中のDX化が加速した年でもありました。漁業者の皆さんは、船上からでもその日の市況を確認できるようになり、漁の調整がしやすくなりました。市場職員にとっても、入力・PDF出力・LINE公開の3手順になり、作業効率が上がっています。

さらに配信内容は市況だけにとどまりません。若手職員や新人が禁漁期間や規格サイズを聞かれるたびに調べていたことから、市場の定休日、禁漁期間、規格サイズの情報、定置網の入船状況もあわせて配信するようになりました。佐渡魚市場は、漁業者の手助けを少しでもできるように、日々更新を続けています。

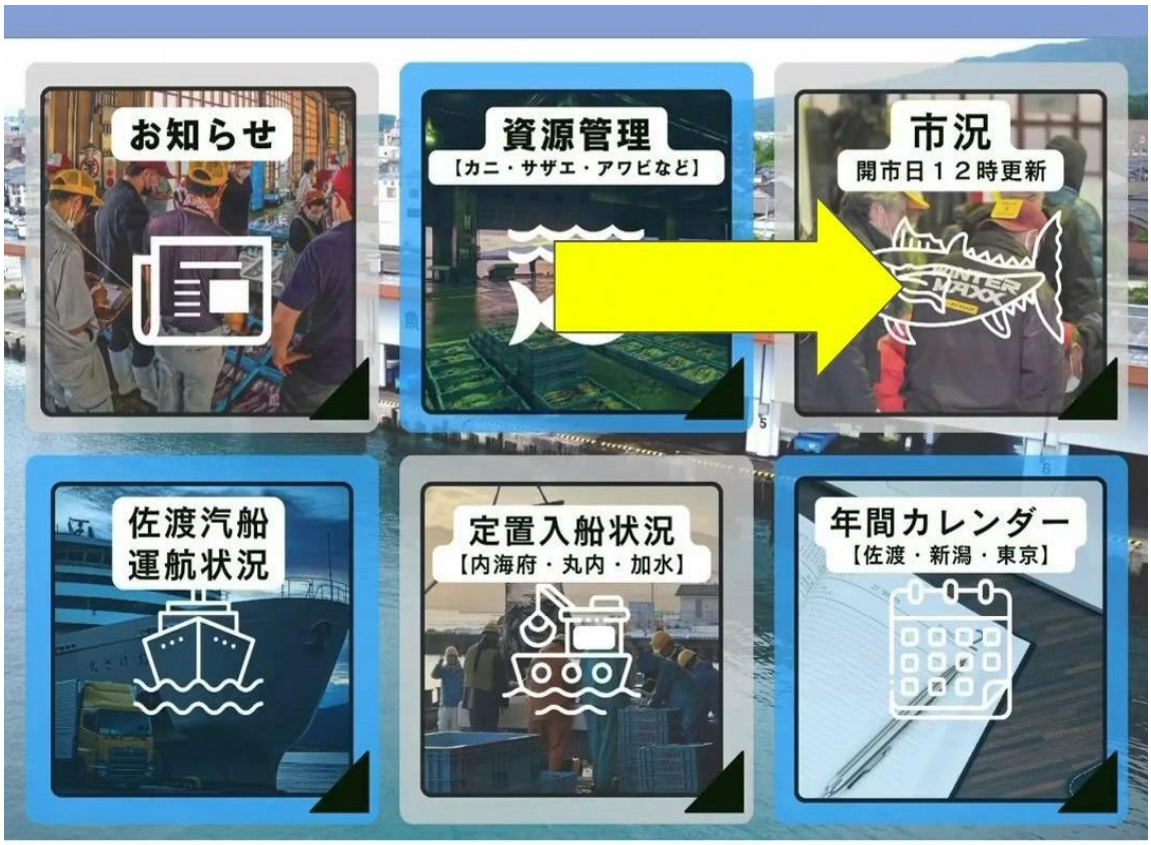


写真３　LINE 公式アカウントのメニュー画面

６．波及効果 ― 魚市場の変化は、商工業の仕事を広げる

魚市場の変化は、市場の中だけにとどまりません。2024 年からは、飲食店や宿泊施設のみなさんにも公式 LINE への登録を呼びかけています。623 名の登録者（令和８年９月１日現在）の中には、飲食店・宿泊施設の関係者も含まれるようになりました。

表１　公式 LINE をきっかけに広がった商工業への変化

分野	公式 LINE をきっかけに広がった変化
飲食	LINE の市況を見て、旬の魚を買受人から仕入れ
宿泊	LINE の市況を見て、お客様に魚市場の見学をご案内
観光	佐渡魚市場【公式】Instagram から公式 LINE へ導線をつくり、旬の魚の情報や見学予約を発信

公式 LINE と Instagram をきっかけに、地元の飲食店・宿泊施設、そして国内外のお客様へと、佐渡の魚の情報が広がり始めています。水産業を「獲る」だけで終わらせない。市場の外へ、商工業へと広げていきたいと考えています。

７．今後の課題や計画

LINE での取り組みは、次の一歩にもつながっています。将来、新市場ができれば、水揚・受入、選別・計量、せり・遠隔入札、決済という４つの工程をデジタル化し、待ち時間と事務時間を短縮することを目指しています。あわせて、衛生・鮮度面でのゾーニングや低温管理、作業・物流面での荷さばき動線の省力化も進めていきます。

これらを実現していくために、3 つの課題にも取り組んでいきます。

・経営基盤の強化 ― 組織の法人化の検討、契約・資産保有の主体の明確化、雇用・資金調達の基盤整備、DX 効果の定量的な検証
・将来の新市場の機能と DX ― 衛生・鮮度管理の高度化、荷さばき動線の省力化、タブレット等新設備の運用体制・研修
・人と地域の連携 ― 担い手・情報発信の人材確保、漁協・買受人・行政との連携、飲食・観光・DX 事業者との協働

また、既存の LINE サービスに有料版を新設することも検討しています。無料版は現状のまま維持しつつ、有料版では市況や定置網の入港状況をプッシュ通知で直接お届けするほか、AI チャットで知りたい情報をその場で確認できる仕組みの導入も目指しています。将来の新市場でのタブレット入札とあわせて、鮮度とスピードの両面から、漁業者の収入向上につなげていきたいと考えています。

８．最後に

数量に頼らない市場をどうつくるか。その問いへの私たちなりの答えが、紙と FAX から LINE ひとつへという小さな一歩でした。作業時間はほぼ半分になり、623 名の登録者に、市況だけでなく漁業に関わる様々な情報を届けられるようになりました。

佐渡島から、新潟県の漁業を強くする。鮮度とスピードを、漁業者の収入に変える。それが、佐渡の漁業を強くする、私たちの挑戦です。

※ 皆さんもぜひ、こちらの QR コードから佐渡魚市場の公式 LINE をご覧ください。

佐渡魚市場公式 LINE（漁業関係者限定）
（漁業関係者向け）

佐渡魚市場観光向け公式 LINE
（観光・飲食・宿泊の皆さま向け）